慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	営業アウトソーシングチームに関する一考察 - 従来型チーム組織理論の限界 -
Sub Title	
Author	加世田, 匡朗(Kaseda, Masaaki) 高木, 晴夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2002
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2002年度経営学 第1759号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002002-1759

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論 文 要 旨

所属ゼミ	髙木 晴夫 研究室	学籍番号	80128198	氏名	加世田 匡朗

（論文題名）

営業アウトソーシングチームに関する一考察
― 従来型チーム組織理論の限界 ―

（内容の要旨）

バブル経済崩壊後の長期不況から抜け出せない日本では、企業のリストラに伴う人件費の削減要請から、人材派遣やアウトソーシングといった非正社員の雇用形態が急速に広まっている。特に、1999 年に施行された「改正派遣法」では、日本のホワイトカラーの代表的職種である営業職の派遣が解禁となり、企業の経営戦略に大きなインパクトを与えた。

こうした時代背景から、本研究では営業アウトソーシングという形態に着目し、そのチーム組織の活動についての事例研究を行った。

研究の結果、チーム組織に関する先行研究の理論の内、かなりの部分が営業アウトソーシングチームには通用しないことが分かった。その理由は、従来型のチーム組織に関する研究が、主に正社員を構成員とするチームを対象として行われてきたこと、そして営業職のような職種を対象とせずに行われてきたことであった。

そこで本研究では、非正社員を構成員とするチーム組織を「Quasi-Team（擬似チーム）」と名付け、従来型チーム組織との比較考察を行った。また、営業職のように、全体の数値目標を従事者の人数で頭割りして個人目標が算出される種類の仕事を「割り算出来る仕事」と名付け、他の職種との相違点を明らかにした。

最後に、これらの点を踏まえた上で、営業アウトソーシングチームを導入・マネジメントする際に留意すべき諸点について、人材派遣会社側とクライアント企業側の双方に向けて、提言を行った。